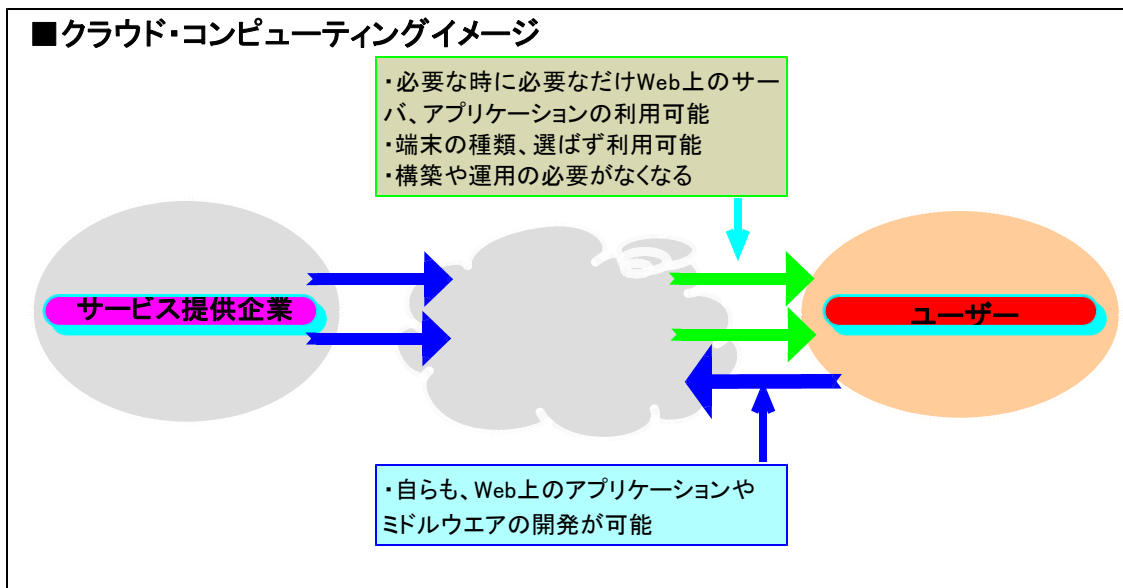


第三回 クラウド・コンピューティング、Web アプリケーション、
ストレージ、リソース、SaaS

(1)クラウド・コンピューティング(Cloud Computing)

インターネットで結ばれた世界中のデータセンターをあたかもひとつのコンピュータのように捉え、その中に用意されたアプリケーションや情報サービスを、ユーザーが必要な時に必要なだけ、ブラウザなどを通じて使えるようにするという、新しいIT利用のコンセプトで、GoogleのCEO、エリック・シュミット氏の講演での発言などをきっかけに世に広まり、Google、Amazon、マイクロソフト、IBMなど主要なIT系企業の多くが既にこの分野に進出しています。なお、クラウドとは、インターネットの中に無数に広がるコンピュータ・リソースを、わき立つ”雲(クラウド)になぞらえた表現です。



◇クラウド・コンピューティングの本質

各方面から注目を集めているクラウド・コンピューティングですが、特にビジネス面におけるその本質は、コンピュータ・リソースの活用に関する既存の2つの潮流の昇華であるといえます。そのひとつは仮想化技術、もうひとつはアプリケーションの広域化です。

●仮想化技術

仮想化技術とは、サーバやストレージ、ネットワークなどのリソースを適切なサイズに切り分け、もっと小規模なバーチャル・リソースの集合体とみなして利用する技

術のことです

●アプリケーションの広域化

ネットワークの信頼性が増すにつれ、業務アプリケーションを外部のデータセンターに置く流れが強まってきました。その代表がSaaSです。

◇クラウド・コンピューティングでIT市場が向かう可能性の方向

クラウド・コンピューティングが本格的に企業に普及すれば、企業は、より安価でよりカスタマイズしやすいIT環境を手に入れられるようになります。例えば、これまでシステム自体を購入していたのが、システムの処理能力を必要な分だけ買えば済むのです。また、アプリケーションをパッケージで買うのではなく、必要な処理機能のみを単独で購入することも可能になります。一方、それはユーザーである企業自身にも変革を迫ることになるでしょう。自分たちはITを使って何をしたいのか、そのために必要なITサービスとは何なのかということ、より厳密に考えねばならなくなるのです。

また社内の既存リソースとクラウド・コンピューティングの連携を図るためには、場合によっては既存リソースに根本的に手を入れる必要が出てくるかも知れません。